



第9号

R1. 6. 28

文責 倉迫

建学 144 年

いじめ根絶月間 各学年の取組み

学校便り「五福校」第7号で、6月は「いじめ根絶月間です」とお知らせしま

したが、今回は、各学年でどのような学習を行い、子どもたちはどのようなことを感じ、学んだのかをお知らせしたいと思います。

2年生

○題材名

・いいところ みつけた（道徳 生きる力）

○学習内容

- 1 学級のいいところは、どんなところか話し合う
- 2 自分のいいところ 「いいところ みつけた」を読んで
 - ① 主人公のりえさんは、自分をどんな子どもと思っているか
 - ② 周りの人は、どんなりえさんと思っているか考える
 - ③ 先生の言葉でなぜ「うれしくなったか」を考える
- 3 各グループの友だちのいいところを考え、ノートに書き、各グループでいいところを話す。その後、全体でも全員に友だちのいいところを発表する。
- 4 友だちからもらったハートの紙は、道徳ノートに貼っておく。

○子どもの反応

- 1 学習中や生活の中から、子ども一人一人がやさしく楽しく笑顔で過ごせることを感じていた。心をつなげて、チームワークでがんばるから、助け合って頑張れる、とても良い環境で安心していることを感じていた。
- 2 目立たないところでもいいことを頑張り、人の役に立つこと、人のお世話を日常でもやっていることを学習した。友だちの見方を変えること、友だちをよく見つめること、特に心の面を学ぶことができた。
- 3 友だちから自分のいいところをたくさん言ってもらって、笑顔でうれしい気持ちが伝わる時間となった。また、クラスが一つになり、心のつながりが深まった。一人一人が、一人の子ども（友だち）を毎日よく見つめていることを実感した。

6年生

題材名

道徳：心づかいと思いやり

学習内容

- 生活の中の思いやりのある行動について経験を出し合う。その中でどのような「思い」からその「行動」にいたったのかを話す。
- 教材「行為の意味」を読み、どのようなことを考えたかを出し合う。
- 車椅子の人が、段差の前で困っている場面を設定し、その場面に出会ったとき、自分はどうなことを考えるかを出し合う。
- 「車椅子役」と「あなた役」で動作化（代表児童）し、どのような気持ちになったかを発表する。
- 困っている人がいたら、どんな考えをもつことが大切かを考え、意見を出し合う。
- 新聞記事「気配りのリレー」を読む。
- 「思いやりの心」について、学んだことをまとめる。

子どもの反応

導入の生活経験を出し合う場面では、多くの子どもたちが「思いやりのある行動」をした経験について意欲的に発表していた。また、その時の「思い」を出させることで、次の「行為の意味」の詩につなげることができた。

「行為の意味」の詩を読んで考える場面では、「心は見えないけど、心づかいは見える」ということがスッと入ってこない子どももいたが、優先席でのことを例に挙げ、席をゆずることは優しい心であり、それが優しい行為になってあらわれているんだと具体的に話す子どもが出たことで、意味を理解していった。

車椅子の場面では、その時にどんなことを考えるかを問うと、「声をかける」という子もいれば、「逆に危ない目にあわせたらと思うとこわい」という子もいた。「こわい」という意見には「わかるわかる」「自分もそう思う」と多くの子どもたちが共感しているようだった。しかしその裏側には「何かやりたい」という「思い」をもっていて、でもそのままだと、「思い」は伝わらないということから、さらに話し合っていた。その中で「～しましょうか？」ではなく、「何かできることありますか？」という聞き方をするとういという意見や、もし自分でできないと思ったら、周りの人にも声をかけるといいのではないかという意見が出された。相手の立場に立って考え、行動するとよいという意見が多く出されていた。

こどもの感想

- ・自分の気持ち、思いを伝えるためには行動にうつさないと伝わらないということが改めてわかりました。
- ・困っている人がいたら助ける。思いや心は見えないけど、行為にあらわしていきたいです。
- ・実際にやっているの（車椅子の動作化）を見て、今度はまねしてやりたいと思った。
- ・困っている人がいたら、どうしたらいいかよく考えて、自分にできることをする。今日、みんなが出した意見をこれからの生活に生かしていきたい。
- ・思い、考えを行動に動かすのはとても難しいので、今日の学習のことを思い出しながら、助けてあげられたらいいと思います。